

果樹作業メモ ラ・フランス摘花編

東根市農協営農販売園芸部

1 摘花の目的

開花～結実：多くの貯蔵養分が必要

⇒ 開花期までに極力花数を減らし、養分を効率的配分



○春根、新梢の発生促進 ⇒ 健全な樹勢の維持

○残った花（～幼果）の細胞分裂を促進

⇒ 高品質果実生産

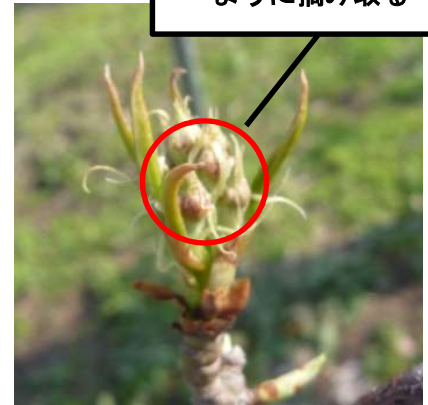
（少ない細胞で無理に肥大した果実は品質不良）

2 品質の良い果実はどこに成る？

○斜立枝についた横向き～斜め横向きの短果枝・中果枝

○大きく（小花が多く）、葉が多い花そう

いらぬ花そうは、
花部分を指でつまむ
ように摘み取る



出蕾期の花そう

3 花そう摘花

○時期：出蕾期～開花期

○方法：花そうごと手で摘み取る

○摘花する（成らせない）花そう

- ・腋花芽（前年新梢の腋についた花芽）
- ・生育遅く、小さい花そう
- ・枝の真上、真下の花そう
- ・主枝・垂主枝先端（下げたくない枝）付近の花そう
- ・ショウガ芽（複数の花芽が密集）は、1花そう残して摘花

4 1輪摘花

○時期：花卉が白くなってきてから

○方法：最も大きい（開花の早い）小花1輪を残す

- ・開花時期の早い小花・・・品質が良い2～3番花のことが多い
- ・晚い番花（花そうの中心の花）は、
幼果段階で大きくても変形果になる

花そう内で一番早く
大きい花を残す

